

性雨の具体例と国際協定の例、そして、第十章では人的起源のオゾンホール形成のメカニズムについて詳しく説明している。第十一章では人間活動がもたらす深刻な地球温暖化の問題をとりあげ、温室効果と放射対流平衡を説明し、炭素循環やエアロゾルの影響、気候モデル予測や気候変動枠組条約などについての最新情報が述べられている。次に、海洋汚染や森林破壊、砂漠化などの地球環境問題に話が及んで、最終章では、自然災害の軽減と防止策、地球環境保全のための国際的協力、持続可能な開発 (sustainable development) の可能性などについて問題提起を行なっている。

地球環境問題を解決するために、我々個人、そして研究者は何をすればよいのか。本書の終わりは著者の切実な提言でしめくくられている。その最後の一節を紹介しよう。

“現在の地球環境の悪化は憂慮すべき段階にある。その解決のためには、社会的な責任と力をもつ国際機関、国、自治体や企業体が組織的に動かなければならない。それと同時に、すべての人々が実際にライフスタイルを変え、環境保全の政策を支持し実行しなければ、この環境悪化を防止できないことを強調したい。”

評者は大学の大气科学の講義で、「近年の地球の温暖化やオゾンホールに代表される地球環境問題について、21世紀に向けて各自のなすべきことを記せ。」とい

うレポートを毎年必ず学生達に書かせることにしている。大学ならではの「答えのない」レポート課題であり、毎年ユニークな提言を発見するのを楽しみにしているのだが、この二宮氏の提言はその模範解答となる。

著者は環境問題にかかわる書物を読むときの注意事項として、同一の事柄が書物により微妙に、あるいはかなり異なって説明される場合のあることを挙げている。著者によるとこれは、第一に環境問題に対する科学的知識や社会的価値観が定まっておらず、年とともに変化するからであり、今日の定説が明日には変化することもありうることを意味する。第二には、同じ内容について説明する場合でも、専門書としてできるだけ詳しく説明する場合と、中学や高校の教科書のように表面的な記述しかできない場合では、説明のしかたも変えざるを得ないからである。本書は、紙面の枠の中で多岐に渡る内容に触れているため、高校の教科書的なまとめ方をしている。この意味において著者は、表面的な記述しかできない表現の差にまどわされずに本質部分を理解し、50億年の歴史の末にたどりついた今日のかげがえのない地球環境を、本書を出発点にして一般の人にも広く理解してもらうことを願っている。

(筑波大学 田中 博)

新刊図書案内

表 題	編 著 者	出 版 者	出版年月	定 価	ISBN	備 考
1900年のハリケーン	エリック・ラーソン	文芸春秋	2000.11	¥800	4-16-730998-X	訳：島田三蔵 文春文庫
風船爆弾：純国産兵器「ふ号」の記録	吉野興一	朝日新聞社	2000.11	¥1,800	4-02-257542-5	
理科年表 第74冊 (平成13年)	文部省国立天文台	丸善	2000.11	¥1,200	4-621-04817-1	他に机上版 (¥2,400) もある
気象FAXの利用法：Part2 数値予報資料とひまわりを使った実践の利用法	日本気象協会	クライム気象図書出版部	2000.12	¥3,600	4-907664-25-7	改訂2版
中谷宇吉郎集第3巻：低温室だより	中谷宇吉郎	岩波書店	2000.12	¥4,700	4-00-092403-6	編集：樋口敬二 池内 了

注：表中で定価はすべて本体価格です (特記したものを除く)。